

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法研究法Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	60	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

理学療法における研究活動の流れを演習を通じて学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における基本的研究活動を実践できる。
2. 自身の研究結果を発表できる。
3. 自身の研究結果を模擬論文化できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 理学療法におけるエビデンスの活用と実践① |
| 第2回 | 理学療法におけるエビデンスの活用と実践② |
| 第3回 | 研究計画の見直し |
| 第4回 | 研究計画の見直し（演習） |
| 第5回 | 研究計画書の修正（演習） |
| 第6回 | 予備研究の基礎的知識① |
| 第7回 | 予備研究の基礎的知識② |
| 第8回 | 予備研究の実践①（演習：データの取得） |
| 第9回 | 予備研究の実践②（演習：データの取得） |
| 第10回 | 予備研究の実践②（演習：統計解析） |
| 第11回 | 統計解析の実践①（差の検定） |
| 第12回 | 統計解析の実践②（分散分析） |
| 第13回 | 統計解析の実践③（相関分析） |
| 第14回 | 統計解析の実践④（単回帰分析） |
| 第15回 | 統計解析の実践⑤（重回帰分析） |
| 第16回 | 統計解析の実践⑥（多重ロジスティック分析） |
| 第17回 | 統計解析の実践⑦（カイ二乗検定） |
| 第18回 | データ取得時の留意点① |
| 第19回 | データ取得時の留意点② |
| 第20回 | 研究発表に向けての準備 |
| 第21回 | 論文執筆における基礎的知識① |
| 第22回 | 論文執筆における基礎的知識② |
| 第23回 | 研究発表準備と論文作成①（演習） |
| 第24回 | 研究発表準備と論文作成②（演習） |
| 第25回 | 研究発表準備と論文作成③（演習） |
| 第26回 | 研究発表準備と論文作成④（演習） |

第27回 研究発表準備と論文作成⑤（演習）

第28回 研究発表会①

第29回 研究発表会②

第30回 研究発表会③

評価方法

発表内容ならびに論文内容

教科書

プリント教材

参考図書・文献

最新理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実際の研究活動を行いますので、日常の疑問に目を向けるとともに論文を日頃から読む習慣をつけるようにしてください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	リスクマネジメント論						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/グループワーク						

授業概要

1. 医療・保健・福祉領域において安全な理学療法を行う上で必要となるリスクマネジメントについて学修します。
2. インシデント、アクシデントを最小限に抑える方法を学修します。

学修到達目標

1. リハビリテーション医療におけるリスクマネジメントの考え方について説明できる。
2. 理学療法業務におけるリスクマネジメントの概念について説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | リハビリテーションにおけるリスクマネジメントの必要性 |
| 第2回 | 医療事故と法的責任 |
| 第3回 | 感染予防対策 |
| 第4回 | リスクマネジメントに必要な検査の知識 |
| 第5回 | リスクマネジメントに必要な薬剤の知識 |
| 第6回 | インシデント・アクシデントレポート |
| 第7回 | 医療施設におけるリスクマネジメント |
| 第8回 | 介護施設におけるリスクマネジメント |
| 第9回 | 在宅におけるリスクマネジメント |
| 第10回 | 脳卒中に対するリスクマネジメント |
| 第11回 | 脳卒中に対するリスクマネジメント（演習） |
| 第12回 | 運動器疾患に対するリスクマネジメント |
| 第13回 | 運動器疾患に対するリスクマネジメント（演習） |
| 第14回 | 内部疾患に対するリスクマネジメント |
| 第15回 | 内部疾患に対するリスクマネジメント（演習） |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本講義では基礎分野から専門分野まで幅広い知識が必須となります。十分な復習を行った上で講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学VI						
担当講師	菊池賢汰 長野由紀江 斉藤公太 戸来幸恵 及川龍彦						
実務経験の概要	菊池賢汰	: 理学療法士	医療施設において実務経験を有する。				
	長野由紀江	: 理学療法士	医療施設において実務経験を有する。				
	斉藤公太	: 理学療法士	医療施設、介護施設にて実務経験を有する。				
	戸来幸恵	: 理学療法士	医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。				
	及川龍彦	: 理学療法士	医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。				
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

グループワークや自己学習を通じ、各種疾患への理学療法提供に至る臨床思考過程を学修します。

学修到達目標

1. 臨床思考過程の流れを経験し、理解する。
2. 各分野における臨床思考過程を経験する。

授 業 計 画

第1回	臨床推論とは	菊池賢汰
第2回	骨関節疾患における臨床推論①	菊池賢汰
第3回	骨関節疾患における臨床推論②	菊池賢汰
第4回	骨関節疾患における臨床推論③	菊池賢汰
第5回	骨関節疾患における臨床推論④	菊池賢汰
第6回	骨関節疾患における臨床推論⑤	長野由紀江
第7回	脳血管疾患における臨床推論①	長野由紀江
第8回	脳血管疾患における臨床推論②	長野由紀江
第9回	脳血管疾患における臨床推論③	長野由紀江
第10回	脳血管疾患における臨床推論④	斉藤公太
第11回	地域における臨床推論①	斉藤公太
第12回	地域における臨床推論②	斉藤公太
第13回	神経筋疾患における臨床推論①	戸来幸恵
第14回	神経筋疾患における臨床推論②	戸来幸恵
第15回	神経筋疾患における臨床推論③	戸来幸恵
第16回	発達障害における臨床推論①	戸来幸恵
第17回	発達障害における臨床推論②	戸来幸恵
第18回	発達障害における臨床推論③	戸来幸恵
第19回	内部障害系疾患における臨床推論①	及川龍彦
第20回	内部障害系疾患における臨床推論②	及川龍彦
第21回	内部障害系疾患における臨床推論③	及川龍彦
第22回	内部障害系疾患における臨床推論④	及川龍彦
第23回	内部障害系疾患における臨床推論⑤	及川龍彦

評価方法

レポート課題

教科書

必要に応じてプリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

各理学療法学の仕上げもしくは補足的学修となります。最終的には個人の能力として身につける必要がありますので十分な復習を行なってください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	骨関節系理学療法学Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

講義やグループワークを通じ、骨関節領域における病期毎の理学療法を学修します。

学修到達目標

1. 骨関節領域における病期毎の目的を説明できる。
2. 骨関節領域における理学療法の概要を説明できる。
3. 骨関節領域における基本的な理学療法技術を模擬患者へ実施できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | 肩関節疾患における急性期理学療法 |
| 第2回 | 肩関節疾患における回復期理学療法 |
| 第3回 | 肩関節疾患における生活期理学療法 |
| 第4回 | 肩関節疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第5回 | 肩関節疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第6回 | 肩関節疾患における理学療法（発表） |
| 第7回 | 肘関節疾患における急性期理学療法 |
| 第8回 | 肘関節疾患における回復期理学療法 |
| 第9回 | 肘関節疾患における生活期理学療法 |
| 第10回 | 肘関節疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第11回 | 肘関節疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第12回 | 肘関節疾患における理学療法（発表） |
| 第13回 | 手関節疾患における急性期理学療法 |
| 第14回 | 手関節疾患における回復期理学療法 |
| 第15回 | 手関節疾患における生活期理学療法 |
| 第16回 | 手関節疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第17回 | 手関節疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第18回 | 手関節疾患における理学療法（発表） |
| 第19回 | 股関節疾患における急性期理学療法 |
| 第20回 | 股関節疾患における回復期理学療法 |
| 第21回 | 股関節疾患における生活期理学療法 |
| 第22回 | 股関節疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第23回 | 股関節疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第24回 | 股関節疾患における理学療法（発表） |
| 第25回 | 膝関節疾患における急性期理学療法 |
| 第26回 | 膝関節疾患における回復期理学療法 |

- | | |
|------|-------------------------|
| 第27回 | 膝関節疾患における生活期理学療法 |
| 第28回 | 膝関節疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第29回 | 膝関節疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第30回 | 膝関節疾患における理学療法（発表） |
| 第31回 | 足関節疾患における急性期理学療法 |
| 第32回 | 足関節疾患における回復期理学療法 |
| 第33回 | 足関節疾患における生活期理学療法 |
| 第34回 | 足関節疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第35回 | 足関節疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第36回 | 足関節疾患における理学療法（発表） |
| 第37回 | 脊椎疾患における急性期理学療法 |
| 第38回 | 脊椎疾患における回復期理学療法 |
| 第39回 | 脊椎疾患における生活期理学療法 |
| 第40回 | 脊椎疾患における理学療法評価・治療（演習） |
| 第41回 | 脊椎疾患における理学療法（グループワーク） |
| 第42回 | 脊椎疾患における理学療法（発表） |
| 第43回 | 関節リウマチにおける理学療法 |
| 第44回 | 関節リウマチにおける理学療法（グループワーク） |
| 第45回 | 関節リウマチにおける理学療法（発表） |

評価方法

筆記試験

教科書

運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版（南江堂）プリント教材

参考図書・文献

筋骨格系のキネシオロジー原著第3版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本講義では解剖・生理・運動学の基礎的知識に加え、2年次の講義理解が重要となります。十分に復習した上で講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅱ						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	前後期
授業形態	講義・実技						

授業概要

中枢神経疾患（主に脊髄損傷、脳血管疾患）の病態や症状を理解し、病期に応じた理学療法評価や治療、リスク管理について学修します。

学修到達目標

1. 中枢神経疾患の病態や種類を理解できる。
2. 中枢神経疾患における病期に応じた症状やリスクを理解できる。
3. 病期に応じた理学療法評価や治療、関わり方を理解し、実践できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 中枢神経系の機能・解剖の復習① |
| 第2回 | 中枢神経系の機能・解剖の復習② |
| 第3回 | 中枢神経系の機能・解剖の復習③ |
| 第4回 | 中枢神経系の機能・解剖の復習④ |
| 第5回 | 脊髄損傷の病態、種類、症状、合併症① |
| 第6回 | 脊髄損傷の病態、種類、症状、合併症② |
| 第7回 | 脊髄損傷に対する理学療法評価① |
| 第8回 | 脊髄損傷に対する理学療法評価② |
| 第9回 | 脊髄損傷の損傷高位における残存機能 |
| 第10回 | 脊髄損傷における急性期の理学療法① |
| 第11回 | 脊髄損傷における急性期の理学療法② |
| 第12回 | 脊髄損傷における急性期の理学療法③ |
| 第13回 | 脊髄損傷における回復期の理学療法① |
| 第14回 | 脊髄損傷における回復期の理学療法② |
| 第15回 | 脊髄損傷における回復期の理学療法③ |
| 第16回 | 脊髄損傷における回復期の理学療法④ |
| 第17回 | 脊髄損傷における維持期の理学療法① |
| 第18回 | 脊髄損傷における維持期の理学療法② |
| 第19回 | 脊髄損傷における維持期の理学療法③ |
| 第20回 | 脊髄損傷における維持期の理学療法④ |
| 第21回 | 症例検討（脊髄損傷）①情報の解釈 |
| 第22回 | 症例検討（脊髄損傷）②問題点と理学療法評価の検討 |
| 第23回 | 症例検討（脊髄損傷）③目標設定と予後予測 |
| 第24回 | 症例検討（脊髄損傷）④治療プログラムの立案、関わり方の検討 |
| 第25回 | 脳血管疾患の病態、種類、症状、合併症① |
| 第26回 | 脳血管疾患の病態、種類、症状、合併症② |
| 第27回 | 脳血管疾患に対する理学療法評価① |

- 第28回 脳血管疾患に対する理学療法評価②
- 第29回 脳血管疾患における理学療法理論
- 第30回 脳血管疾患における急性期の理学療法①
- 第31回 脳血管疾患における急性期の理学療法②
- 第32回 脳血管疾患における急性期の理学療法③
- 第33回 脳血管疾患における急性期の理学療法④
- 第34回 脳血管疾患における回復期の理学療法①
- 第35回 脳血管疾患における回復期の理学療法②
- 第36回 脳血管疾患における回復期の理学療法③
- 第37回 脳血管疾患における回復期の理学療法④
- 第38回 脳血管疾患における維持期の理学療法①
- 第39回 脳血管疾患における維持期の理学療法②
- 第40回 脳血管疾患における維持期の理学療法③
- 第41回 脳血管疾患における維持期の理学療法④
- 第42回 症例検討（脳血管疾患）①情報の解釈
- 第43回 症例検討（脳血管疾患）②問題点と理学療法評価の検討
- 第44回 症例検討（脳血管疾患）③目標設定と予後予測
- 第45回 症例検討（脳血管疾患）④治療プログラムの立案、関わり方の検討

評価方法

筆記試験

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂） 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム（医学書院）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

2年次に行った中枢神経系理学療法学Ⅰの内容を復習した上で講義に臨んで下さい。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	内部障害系理学療法Ⅱ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/実技/演習						

授業概要

講義やグループワークを通じ、内部障害領域における病期毎の理学療法を学修します。

学修到達目標

1. 内部障害領域における理学療法の目的を説明できる。
2. 内部障害領域の理学療法の概要を説明できる。
3. 内部障害領域における理学療法技術を模擬患者へ実施できる。

授 業 計 画

- 第1回 呼吸器疾患における急性期理学療法①（概要）
- 第2回 呼吸器疾患における急性期理学療法②（医学的介入）
- 第3回 呼吸器疾患における急性期理学療法③（演習）
- 第4回 呼吸器疾患における急性期理学療法④（演習）
- 第5回 呼吸器疾患における急性期理学療法⑤（理学療法評価）
- 第6回 呼吸器疾患における急性期理学療法⑥（治療・指導）
- 第7回 呼吸器疾患における回復期理学療法①（概要）
- 第8回 呼吸器疾患における回復期理学療法②（医学的介入）
- 第9回 呼吸器疾患における回復期理学療法③（演習）
- 第10回 呼吸器疾患における回復期理学療法④（演習）
- 第11回 呼吸器疾患における回復期理学療法⑤（評価・治療・指導）
- 第12回 呼吸器疾患における生活期理学療法①（概要）
- 第13回 呼吸器疾患における生活期理学療法②（演習）
- 第14回 呼吸器疾患における生活期理学療法③（演習）
- 第15回 呼吸器疾患における生活期理学療法④（演習）
- 第16回 循環器疾患における急性期理学療法①（概要）
- 第17回 循環器疾患における急性期理学療法②（医学的介入）
- 第18回 循環器疾患における急性期理学療法③（演習）
- 第19回 循環器疾患における急性期理学療法④（演習）
- 第20回 循環器疾患における急性期理学療法⑤（理学療法評価）
- 第21回 循環器疾患における急性期理学療法⑥（治療・指導）
- 第22回 循環器疾患における回復期理学療法①（概要）
- 第23回 循環器疾患における回復期理学療法②（医学的介入）
- 第24回 循環器疾患における回復期理学療法③（演習）
- 第25回 循環器疾患における回復期理学療法④（演習）
- 第26回 循環器疾患における回復期理学療法⑤（評価・治療・指導）

- 第27回 循環器疾患における生活期理学療法①（概要）
- 第28回 循環器疾患における生活期理学療法②（演習）
- 第29回 循環器疾患における生活期理学療法③（演習）
- 第30回 循環器疾患における生活期理学療法④（評価・治療・指導）
- 第31回 代謝疾患における初期理学療法①（概要）
- 第32回 代謝疾患における初期理学療法②（医学的治療）
- 第33回 代謝疾患における初期理学療法③（演習）
- 第34回 代謝疾患における初期理学療法④（演習）
- 第35回 代謝疾患における初期理学療法⑤（評価・治療・指導）
- 第36回 代謝疾患における管理と理学療法①（概要）
- 第37回 代謝疾患における管理と理学療法②（演習）
- 第38回 代謝疾患における管理と理学療法③（演習）
- 第39回 代謝疾患における管理と理学療法④（演習）
- 第40回 代謝疾患における管理と理学療法⑤（管理の実際）
- 第41回 代謝疾患における日常生活の維持①（概要）
- 第42回 代謝疾患における日常生活の維持②（演習）
- 第43回 代謝疾患における日常生活の維持③（演習）
- 第44回 代謝疾患における日常生活の維持④（演習）
- 第45回 代謝疾患における日常生活の維持⑤（日常生活の工夫）

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

生理学的知識が基本になるほか、病態の十分な理解が必要となりますので十分な予習をしてください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	神経筋疾患理学療法学						
担当講師	長野由紀江 戸来幸恵						
実務経験の概要	長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/グループワーク						

授業概要

難病疾患を呈する症例について、理学療法の目的と過程を学びます。

学修到達目標

1. 難病疾患の病態を説明できる。
2. 病態、過程に応じた理学療法の目的と評価、プログラムの過程を述べることができる。
3. 難病疾患を有した症例について、理学療法推論に基づき、理学療法過程を述べるができる。

授 業 計 画

第1回	難病疾患の概要	長野由紀江
第2回	脊髄小脳変性症の病態 障害	長野由紀江
第3回	脊髄小脳変性症における理学療法評価	長野由紀江
第4回	脊髄小脳変性症における理学療法介入	長野由紀江
第5回	ケーススタディ 脊髄小脳変性症 病期(障害程度)に応じた理学療法①	長野由紀江
第6回	ケーススタディ 脊髄小脳変性症 病期(障害程度)に応じた理学療法②	長野由紀江
第7回	ケーススタディ 脊髄小脳変性症 病期(障害程度)に応じた理学療法③	長野由紀江
第8回	ケーススタディ 脊髄小脳変性症 病期(障害程度)に応じた理学療法④	長野由紀江
第9回	筋萎縮側索硬化症の病態 障害	長野由紀江
第10回	筋萎縮側索硬化症における理学療法評価	長野由紀江
第11回	筋萎縮側索硬化症における理学療法介入	長野由紀江
第12回	ケーススタディ 筋萎縮側索硬化症 病期(障害程度)に応じた理学療法①	長野由紀江
第13回	ケーススタディ 筋萎縮側索硬化症 病期(障害程度)に応じた理学療法②	長野由紀江
第14回	ケーススタディ 筋萎縮側索硬化症 病期(障害程度)に応じた理学療法③	長野由紀江
第15回	ケーススタディ 筋萎縮側索硬化症 病期(障害程度)に応じた理学療法④	長野由紀江
第16回	パーキンソン病 疾患概要	戸来幸恵
第17回	パーキンソン病 理学療法の目的の特異性	戸来幸恵
第18回	パーキンソン病 病期(障害程度)に対応した理学療法①	戸来幸恵
第19回	パーキンソン病 病期(障害程度)に対応した理学療法②	戸来幸恵
第20回	パーキンソン病 合併症状への対応について	戸来幸恵
第21回	パーキンソン病 環境設定とリスク管理	戸来幸恵
第22回	パーキンソン病 ケーススタディ①	戸来幸恵
第23回	パーキンソン病 ケーススタディ②	戸来幸恵

評価方法

課題レポート（70%）筆記試験（30%）

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト改訂第3版(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

難病疾患における病態の特性について、理解を深めておいてください。（長野）
神経内科学で学んだことを復習して講義に臨んでください。（戸来）

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	発達障害理学療法学						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義・実技・グループワーク						

授業概要

発達障害に対する理学療法について学修します。

学修到達目標

1. 発達障害について理解できる。
2. 脳性麻痺に対する理学療法について理解できる。
3. 二分脊椎に対する理学療法について理解できる。
4. 筋ジストロフィに対する理学療法について理解できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 発達障害の概要と病態 |
| 第2回 | 小児リハビリテーションについて |
| 第3回 | 正常運動発達、原始反射および姿勢反射・反応 |
| 第4回 | 脳性麻痺の概念と類型別特徴 |
| 第5回 | 脳性麻痺の二次的障害 |
| 第6回 | 脳性麻痺に対する理学療法評価① |
| 第7回 | 脳性麻痺に対する理学療法評価② |
| 第8回 | 脳性麻痺に対する理学療法介入① |
| 第9回 | 脳性麻痺に対する理学療法介入② |
| 第10回 | 脳性麻痺に対する理学療法介入③ |
| 第11回 | 脳性麻痺に対する理学療法の考え方 |
| 第12回 | 脳性麻痺に対する生活支援 |
| 第13回 | 二分脊椎の原因と臨床像 |
| 第14回 | 二分脊椎に対する理学療法評価① |
| 第15回 | 二分脊椎に対する理学療法評価② |
| 第16回 | 二分脊椎に対する理学療法介入① |
| 第17回 | 二分脊椎に対する理学療法介入② |
| 第18回 | 二分脊椎に対する生活支援 |
| 第19回 | 筋ジストロフィの疾患概要と運動機能の経過 |
| 第20回 | 筋ジストロフィに対するライフステージに応じた理学療法評価及び目標設定 |
| 第21回 | 筋ジストロフィに対する機能障害度別理学療法介入① |
| 第22回 | 筋ジストロフィに対する機能障害度別理学療法介入② |
| 第23回 | 筋ジストロフィに対する生活支援 |

評価方法

筆記試験

教科書

小児理学療法テキスト改訂第3版(南江堂)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

正常発達、原始反射、姿勢反射・反応について十分な復習をしてください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	複合病態理学療法学						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義・実技・グループワーク						

授業概要

様々な疾患を併せ持つ患者に対する理学療法について学修します。

学修到達目標

1. 複合性局所疼痛症候群(CRPS)に対する理学療法について理解できる。
2. リンパ浮腫に対する理学療法について理解できる。
3. 合併症のある患者に対する理学療法について理解できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | CRPSの病態生理 |
| 第2回 | CRPSの症状と徴候、診断 |
| 第3回 | CRPSの治療と予後 |
| 第4回 | CRPSに対する理学療法評価 |
| 第5回 | CRPSに対する理学療法介入 |
| 第6回 | リンパ浮腫の病態生理 |
| 第7回 | リンパ浮腫の症状と診断 |
| 第8回 | リンパ浮腫の治療 |
| 第9回 | リンパ浮腫に対する理学療法評価 |
| 第10回 | リンパ浮腫に対する理学療法介入① |
| 第11回 | リンパ浮腫に対する理学療法介入② |
| 第12回 | ケーススタディ：骨粗鬆症の既往がある脊椎圧迫骨折患者に対する理学療法① |
| 第13回 | ケーススタディ：骨粗鬆症の既往がある脊椎圧迫骨折患者に対する理学療法② |
| 第14回 | ケーススタディ：骨粗鬆症の既往がある脊椎圧迫骨折患者に対する理学療法③ |
| 第15回 | ケーススタディ：肩手症候群を合併した脳血管疾患患者に対する理学療法① |
| 第16回 | ケーススタディ：肩手症候群を合併した脳血管疾患患者に対する理学療法② |
| 第17回 | ケーススタディ：肩手症候群を合併した脳血管疾患患者に対する理学療法③ |
| 第18回 | ケーススタディ：高次脳機能障害患者の理学療法① |
| 第19回 | ケーススタディ：高次脳機能障害患者の理学療法② |
| 第20回 | ケーススタディ：高次脳機能障害患者の理学療法③ |
| 第21回 | ケーススタディ：脳血管疾患の既往がある大腿骨頸部骨折患者に対する理学療法① |
| 第22回 | ケーススタディ：脳血管疾患の既往がある大腿骨頸部骨折患者に対する理学療法② |
| 第23回 | ケーススタディ：脳血管疾患の既往がある大腿骨頸部骨折患者に対する理学療法③ |

評価方法

筆記試験

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

様々な疾患の理解が必要となりますので、適宜予習・復習を行って講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	物理療法学Ⅱ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

講義や実技を通し、各種物理療法における治療理論や実施の流れを学修します。

学修到達目標

1. 各種物理療法の治療目的や作用、適応・禁忌を説明できる。
2. 各種物理療法を模擬患者に対して実施できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------|
| 第1回 | 温熱療法の実際① |
| 第2回 | 温熱療法の実際② |
| 第3回 | 寒冷療法の実際① |
| 第4回 | 寒冷療法の実際② |
| 第5回 | 水治療法の実際① |
| 第6回 | 水治療法の実際② |
| 第7回 | 超音波療法の実際① |
| 第8回 | 超音波療法の実際② |
| 第9回 | 電気療法の実際① |
| 第10回 | 電気療法の実際② |
| 第11回 | 電気療法の実際③ |
| 第12回 | 光線療法の実際① |
| 第13回 | 光線療法の実際② |
| 第14回 | 牽引療法の実際 |
| 第15回 | 各種疾患と物理療法 |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

物理療法学（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

治療の目的と治療効果に対する根拠が必要ですので十分な復習をしてください。

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	義肢学						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

1. 義肢の構造と機能について学修します。
2. 切断者の理学療法について学修します。

学修到達目標

1. 切断の原因と切断前後の管理方法について説明できる。
2. 各種義肢の構造と特徴、機能について説明できる。
3. 義肢装着と切断者に対する理学療法について説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 義肢総論 |
| 第2回 | 切断原因と治療 |
| 第3回 | 切断部位と切断術 |
| 第4回 | 切断者に対する理学療法評価 |
| 第5回 | 断端評価と断端管理 |
| 第6回 | 大腿義足ソケット |
| 第7回 | 膝継手 |
| 第8回 | 下腿義足ソケット |
| 第9回 | 足継手 |
| 第10回 | 股義足、膝義足、サイム義足 |
| 第11回 | 異常歩行とアライメント |
| 第12回 | 切断者に対する立位・歩行練習 |
| 第13回 | 上肢切断と義手 |
| 第14回 | 切断者に対する理学療法（グループワーク） |
| 第15回 | 切断者に対する理学療法（発表） |

評価方法

筆記試験

教科書

義肢装具学テキスト改訂 第3版（南江堂）

参考図書・文献

切断と義肢 第2版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

切断者に対する理学療法においては、対象者ならびに義肢装具士との連携が重要となります。解剖・生理・運動学の基礎的知識に加え、各領域の理学療法と関連づけて学修するようにしてください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	対象者支援学Ⅱ						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義・グループワーク						

授業概要

福祉関係法規と障害福祉サービスを知り、対象者の生活を支援するための思考を学修します。

学修到達目標

1. 福祉関係法規について理解できる。
2. 障害福祉サービスについて理解できる。
3. 「対象者の生活を支援する」という視点を養うことができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 福祉関係法規 |
| 第2回 | 障害者・障害児を対象としたサービス |
| 第3回 | 地域生活支援事業 |
| 第4回 | サービス利用手続きと利用者負担の仕組み、軽減措置について |
| 第5回 | 身体障害者手帳、補装具の制度について |
| 第6回 | 生活とライフステージ |
| 第7回 | 退院後の生活について |
| 第8回 | 事例検討 |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

評価方法

レポート課題

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

- 1、2年次に学んだ専門分野の知識が必要となりますので、復習を行って講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	地域理学療法学Ⅲ						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義・演習						

授業概要

地域理学療法における実践的な実務内容（臨床推論、多職種協働、環境調整、ケアプランの理解、リスク管理など）を演習を通して学修します。

学修到達目標

1. 地域理学療法を実践する上で必要な関連制度を理解できる。
2. 地域理学療法における多職種連携、チームアプローチの重要性を理解できる。
3. 地域における実践的な理学療法や関わり方、リスク管理を理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 地域におけるサービスの理解と関連制度
- 第2回 ケアプランの理解
- 第3回 ケアプランの作成（グループワーク）
- 第4回 事例検討（臨床推論）
- 第5回 事例検討（環境調整）
- 第6回 事例検討（多職種連携）
- 第7回 事例検討（リスク管理、緊急時対応）
- 第8回 事例検討（ターミナルケア）
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

筆記試験

教科書

標準理学療法学専門分野 地域理学療法学（医学書院）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

2年次に行った地域理学療法学Ⅱの講義内容を復習して講義に臨んで下さい。

【臨床実習】

【理学療法学科】

科目名	評価実習						
履修年次	3	単位数	4	時間数	180	開講時期	後期
授業形態	実習						

実習目的

1. 理学療法における一連の評価を実践出来る。
2. 論理的思考過程を実践出来る。
3. 準理学療法士として、役割と責任を理解した行動ができる。

実習概要

評価実習を通じ、理学療法提供の根幹となる理学療法評価を実践し、その結果をもととした臨床推論を経験の上、治療プログラムを挙げるまでの過程を経験します。

学修到達目標

1. 理学療法における評価について一連の流れを理解できる。
2. 理学療法評価の手法を実践できる。
3. 理学療法評価の結果をもとに臨床推論の一部を実践できる。
4. 臨床実習施設において準職員としての行動を取れる。

評価方法

提出課題

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「臨床実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。